



OKKYO

姫路獨協大学同窓会 獨楽会会報

2003年8月15日

Vol.12



対談 姫路獨協大学を、どう変える!?

第7回同窓会総会のご案内 (10月19日)

好評シリーズ 各界で活躍! HDU同窓生

社会保険労務士受験対策講座 2期生募集

姫路獨協大学同窓会

こ 獨 楽 かい
会

〒670-8524 兵庫県姫路市上大野7-2-1

TEL & FAX (0792) 23-9263

URL <http://www.hdud.gr.jp>

Eメール honbu@hdud.gr.jp

姫路獨協大学を、どう変える!?

〈木村修三学長 & 武本錠治同窓会長〉



武本会長: 姫路獨協大学も創立して早16年目に入りました。少子化と経済の低迷で全国的に大学に進学する学生が減っている今、これから本学が生き残っていくためにも、どのような策を講じていかれるのか。早速ですが学長のお考えをお聞かせ下さい。

木村学長: 本学は1987年に開学され、去年15年目を迎えました。私が学長に就任したのが2年前。就

任して、本学の実情を調べてみたところ、私自身ある意味で愕然としたというか、危機感をもったわけです。みなさんご存知のとおり、本学は、姫路市、姫路市民をはじめ、この西播磨地域の方々の非常に強いご要望と、獨協学園の新しい文科系総合大学を作りたいという意向が合致し、全国で初めて公私協力方式という形で獨協学園と姫路市が協定を結び、姫路市が資金と土地を提供しますということで創立されました。重元のご要望と資金的なものを含めての甚大な協力のもとに姫路獨協大学ができたわけです。

当初は、獨協というブランドと市民の強い期待もあり、入学志願者も非常に多かったです。最初は法学部と外国語学部の2学部で発足しまして、2年遅れて経済情報学部ができたわけですが、最盛期には、学生定員850人に1万人を超す入学志願者がありました。ところが1年ごろから志願者が減りだし、特に外国語学部の志願者が最初に減りました。

96~7年頃からは法学部、経済情報学部も減り始めました。私がこの大学にきたのは98年ですが、その頃からは益々減り始めました。非常に残念なことなのですが、率直に言って外国語学部は今年で4年続いて定員割れなのです。法学部は昨年定員割れし、非常に危機感をもっていたのですが、今年はまた盛り返しています。経済情報学部は一応倍率はあるけれど、全体として入学志願者が減り、後で入学を辞退する人もあるので、ほぼ全入状態という状況になっています。

学長に就任して色々考え、分析もしたのですが、長期的な少子化、高齢化問題に加え、やはり不況による長期的な経済の低迷、特に関西・中国地域の厳しい経済状況の影響が非常に大きい。かつては岡山、広島、四国からかなりの志願者があったのが、今は、それほど授業料の安い本学に子供さんを姫路に送り出す事にどうしても慎重にならざるをえません。

地元の大学だと下宿代がかからないし、国公立なら授業料も安い。それから、近隣に兵庫大学(加古川市)や近畿福祉大学(福崎町)、関西福祉大学(赤穂市)ができ、もともと理料系の姫路工業大学に環境人同学部というまさに文科系の学部ができ、地元の高校生、特に女子にとっては選択肢が増えたということもあります。

やはり女子生徒にとっては、福祉・介護を選択すれば将来的に安定しているという要因もあるでしょう。しかしながら、少子化や経済不況、また近隣に文科系大学が増えたことよりも、基本的な要因は姫路獨協大学が行ってきた教育が地元の優秀な高校生の期待に沿えなかったということが大きいのではないかと思います。昔の方を鞭打つ訳ではないですが、なぜかといいますと高校生には口コミで大学の授業実態が伝わります。おそらく大学ができた当初は地元でも優秀な高校生が入ってきたと思うのですが、残念な事にここ数年は地元の非常に優秀な高校からは全く入ってこなくなりました。優秀な生徒が入ってこないということはこの大学に魅力がなくなったということではないでしょうか。

魅力がない一番大きな要因の一つとしては、教育の在り方が期待に添えなかったことだろうと思うのです。最初はバブル期で苦労しなくても受験生がどんどん集まってきた。決してこの大学の教員の質が悪いという訳ではなく、もちろん立派な先生方もたくさんいらっしゃるのですが、教育に対する対応というものがかなりおろそかになった教員もいるのではないかと。あるいは地元の人が大学に対して期待するのは、どういう教育がなされているか、どういったところに就職できるかということが非常に大きい。例えばこの大学を卒業して、公務員試験や司法試験にどれだけ受かるかということも、かなり大きいのではないのでしょうか。また、経済情報学部であれば、何年かに一度でも

公認会計士に受かるか、姫路または近隣の市町村の公務員試験に受かるかどうか、あるいは教員採用試験に受かるかどうか。

大学の教員というのは研究者であると同時に教育者でもないといけません。研究者としての意識が強すぎて、教育者として学生の就職に関して苦労することはないんだという偏った考え方があったのではないかと。だから非常に残念なことに、法学部があるのに司法試験に受かった人が一人もいないんです。もちろん司法試験は非常に難しいものですが、一人でも受かった人がいると評価がまた違ってくるものなのです。

多くの法学部を持つ大学では法律を学ぶ学生に向けて法律相談部をつくって、法律の実際的な勉強をさせて、同時に司法試験を狙わせる、そういう大学生のクラブ活動を助けながら司法試験を受けさせるという取り組みがあるのですが、本学にはそれが全くなかった。それは一つの例ですが、いったん落ちた評価を取り戻すのは、至難の業ですが身を引き裂くしかないわけです。いくら新聞に宣伝しても、一時的に名前は売れるかもしれませんが、教育の中身がしっかりしていないと評判は取り戻せないと考えています。

武本会長: 最近ではスポーツ選抜にも力を入れていますね。

木村学長: スポーツ特別選抜というのは受験生が減ってきたことに対する対応なのですが、最初は硬式野球部だけだったのが今は剣道部、柔道部、弓道部、ソフトテニス部、サッカー部、バレーボール部に広がっています。一定レベルのスポーツの技量があって、かつ高校時代の全体の評定平均点が2.7以上あれば入れます。スポーツ特別選抜で入学した学生には、そのスポーツの種目にあった練習設備と指導者を与えなければいけませんから、弓道場、ソフトテニスの夜間照明と部室を整備しました。柔道場と剣道場を備える創立15周年記念館もその一環です。もちろん創立15周年記念館の中にはミーティングルームやオープンテラスも設けています。

ただし、スポーツ特別選抜の学生は全体の一部ですから、一番大事なことはやはり一般学生に対する教育の中身。特に外国語学部が沈滞を打開しなければいけません。語学の獨協であるにもかかわらず、外国語学部が定員割れというのではどうにもならない。もちろん獨協ですからドイツ語が中心にならないといけません。第2次世界大戦以後、どこの大学でも英語に比べてウエイトが下がっているのは仕方ありません。問題は英語なんです。やはり英語教育がしっかりしていれば、ほかの学科も評判が上がる。そのためにはどうしても英語教育を立て直さなければならない。ところがいままでの過去の詳しい経緯はわかりませんが、英語教育の在り方について、英文学史などの文学的なものを中心として考える方や、実用的な英語能力を目指すべきであると考えの方の2通りの大きな考え方の違いがあります。しかも英語教育の先生が英語学科の他に一般教育にもたくさん分かれており、統一的ではなかった。そういったこともあり英語学科が沈滞し、地元の生徒ががっかりした。そういったこともあり、英語教育を立て直さなければならない。そこで思い切って昨年、英語の先生を7名採用したわけです。これはかなり無理をしまして、もちろん若い人も採用しましたが、中心となる人も必要だと思ひまして、それぞれの大学で英語教育の中心になられている神戸大学の田中先生、兵庫教育大学の三浦先生に特別教授として来ていただきました。そして今年さらに2名採用しました。

武本会長: 実用的な形に変えるということですね。

木村学長: そうです。企業が求めているのは、少なくとも英語が話せて読めるという人です。神戸大学や京都大学ならアイランドの17世紀の文学をもっと学ぶ学生がいてもいいのですが、本学にはやはり実践的な外国語能力を要求されるわけです。

武本会長: 学生もそういう実践的な能力を身につけることを望んでいるのではないのでしょうか。

木村学長: そうです。とにかく、実践的な事を強化しようとやりはじめたんです。同時に2つの事をやりました。1つは実践的な語学能力を身につけさせるためには、ネイティブスピーカーたちと接する必要があるわけで、1年生にはできるだけネイティブの先生に授業をして頂くと同時に、15周年記念事業の一環として海外語学研修を外国語学部の全学生に受けさせました。英語学科は6週間、オーストラリアとニュージーランドの3大学で、ドイツ語学科はゲーテ・インスティテュート、中国語学科は北京大学。ドイツ語と中国語はそれぞれ4週間です。この海外語学研修は、この2月に一斉に行いました。

受け入れ大学の授業料はすべて姫路獨協大学が負担します。さらに学生にインセンティブを与えるためにTOEICでレベル分けし、一番レベルの高い人は滞在費も旅費もこちらが負担、その次のレベルの人は旅費を負担しますということをやりました。しかし最初に申し上げたとおり、全入に近い状態です。中には語学能力のない人もおり、TOEICで300点をクリアできない学生もいます。そういった学生には何度もチャンスを与えてクリアできるようにしています。この海外語学研修は必修ですが、健康状態、家庭の事情などで参加できない学生もおり、代替策を講じています。

2つ目としては英語学科特別履修コースのクラスを作りました。教育の在り方というのは非常に難しく、全部の人に合わせるような平均的な授業を行うと、できる人にとっては非常に不満なわけです。かといって全部のレベルを高くすると、ついてこれない学生も出てくる。そのためにはレベルに応じて授業を行わなければならない。またそれはレベルの高い人をひきつけることによって、大学の評価も上がることもなると思っています。このコースは英語学科の試験とは別に試験を行います。試験には条件があり、英語圏の外国に6ヶ月以上留学した経験がある、または英検2級以上もしくはそれに準じる資格を有する生徒です。このクラスに入った学生は、英語学科の授業に関しては英語で行います。そして少なくとも同時通訳ができるくらいの能力を在学中に身につけさせようと考えています。

日本語学科についてですが、関西では日本語学科がある私立大学は極めて少ない。関東でも珍しい。日本語学科には2つ意味があり、1つは外国人学生が外国語としての日本語をきちんと身につける、また同時に日本の文化、歴史を学ぶ。もう1つは日本人学生が日本語の教師になるための道なんです。この2つを並行に行っています。今までの実績をみると非常にたくさんの日本語教師が出ています。日本語教師というのは、今から10年程前までは国内で非常に需要があったわけです。ところが今、国内では需要が殆ど無く、アメリカ、オーストラリア、東南アジアなどの国外での需要が高まっています。そういった国々では小学校、中学校くらいから日本語のコースができており、そういうところで教えられる日本語教師の需要が高まっています。そのため、本学の日本語学科卒業生はずいぶん海外で日本語の先生をしています。ただ、海外で日本語の教師をやっていくためには、日本語の教育法をきちんとマスターしただけではダメなんです。やはり外国語でコミュニケーションをとれなければだめです。そういうことで新しく平成16年度の入試から日本語教育特別コースというものを作りました。これは日本語の教師になりたい人に英語の力も一緒につけさせることが目的です。ですからこのコースには一定以上の英語力が必要になります。日本語についての授業も行うと同時にたくさんの英語の授業も行っています。そして大学の経費で在学中に半年間、留学させます。先程述べた英語学科特別履修コースは1年間の留学です。

武本会長:人数的にはどのくらいなのですか？

木村学長:枠は20人程度です。しかし能力がなければ、少なくとも良いと考えています。これからどういう実績があるかわかりませんが、外国語学部の評価を良くしなければ、大学としての評価も建て直せない。そういうことを地道に行っていくしかないと考えています。

ここ数年、危機的状況になっていた、市役所をはじめとする公務員試験、教員採用試験に採用される学生が増えてきました。開学当時は毎年、姫路市役所へ採用されていましたが、何年か全く採用されない時期がありました。景気が悪くなり、安定した公務員への競争率が高くなったということもあるのですが、やはり姫路獨協大学の学生では歯が立たなかったということもあるのでしょう。しかし幸い昨年、採用者がありました。高校へ入試説明会を行った際に、教員の中に卒業生がおられ、公務員試験の合格者を増やして下さいとお願いされたりもしました。

それから、法科大学院を作ろうということになりました。これは司法改革の一環として法科大学院制度というもの平成16年から発足するということです。やはり法学部があるのに法科大学院がなければ、何のための法学部かということにもなりかねません。そこで、特に法学部の先生方が非常に危機感を持って法科大学院を立ち上げようということになりました。しかし法科大学院を開設するのは非常に難しく、72大学が申請しているのですが、ものすごい教員の引き抜きがあるわけです。特に商法、民法、刑法。設立するためには大学院で教える資格がある教員がいなくてはならない。法科大学院設置申請をしない大学の法学部は、良い先生がどんどん引き抜かれて草刈場のようになりました。本学も、もし名乗りをあげなければ、優秀な先生方が引き抜かれていったことでしょう。そういう危険性もあり法学部の先生方からどうしても法科大学院をやりたいという声が上がりました。来年、定員40名で開設を目指しています。

武本会長:設置認可についてはどうなっているのでしょうか？

木村学長:認可はまだです。私の考えでは、審査期間が短いので厳密に審査する事は難しいのではと思っています。まず、すべてを認可し、実際に学生が集まってくるかどうか、次にそのうち何割が司法試験に通るかどうか。遅くとも3年後には結果が出るわけですから、全然受からないようなところは自ずと淘汰されていくでしょう。恐らくそう

いうことではないでしょうか。近畿で申請している大学は私立大11校があり、その他にも国公立大があります。兵庫県内だけを見ても神戸大学、関西学院大学、甲南大学、神戸学院大学、姫路獨協大学があります。また岡山県は岡山大学の1校のみで私立はなく、四国は2つの大学が1つの法科大学院を創ります。ですから地域的にみれば、神戸学院大学と競合する部分があります。もう半年ほどしかないのですが、いかに良い学生を集めるかが大事です。もちろん本学の法学部の学生にも入ってもらわないといけない。法科大学院は法学部の学生以外でもいいんです。法学部以外の学生も採らなくてはいけないということになっているんです。

武本会長:法学関係の単位をとっていただくだけでもですか？

木村学長:そうです。必ず3分の1は法学部以外から採らなくてはいけないのです。制度としては、法学部の卒業生は2年で試験が受けられますが、法学部卒業以外の学生つまり法学未修者は3年で受けられるというシステムになっています。準備はかなり遅れましたが、教員、スタッフは揃いました。これから西館を全面的に改修し、演習室、教室をつくります。そんなに教室はいらないのですが、自習室は必要です。現在大学図書館3階に国際会議室があります。

武本会長:使用されていませんね(笑)。

木村学長:そうなんです。できた当時は同時通訳室があり、両期的な施設だったんですが、16年間で国際会議が1回しか行われず活かされていない。ですからもったいないことではありますが、使用しないままよりは改修してブースをつくり、パソコンなどを置き、法科大学院生だけではなく既存の院生も使えるようにしようという計画です。

経済情報学部は今のところ受験生は集まっています。ここには情報という教職課程ができ、その方面にも道が開けています。しかしこれにも問題が色々あります。今までは情報の先生は一般教育部に属していました。今そういった先生は所属を経済情報学部に変え、一元的にやろうと。本学ができた時には学生のパソコンもMac派とWindows派にわかれていたようです。もちろん教え方も違いますし、やはりそれでは困ります。もちろんMacが良いパソコンであることには間違いはないんですが、いま企業の主流はWindowsになっています。



武本会長:そうですね。プロフェッショナルな分野ではMacが使われていますが。

木村学長:しかし企業に入るとほとんどがWindows。そういうことで学内のパソコンはWindowsに統一しました。同時に情報の先生の進言もあり、「Linux」というソフトを取り入れました。しかし、ただ単にパソコンを操れるというだけなら専門学校の方が良いわけです。ですから経済学や経営学の基礎的な知識を持った上でいかにパソコンを利用していか、あるいはそれでプログラムを考えられるか、そういうことを教育の重点に置かないといけない。いずれにしても教育の中身を変えるということしかないと考えています。とは言え、中身を変えても効果はなかなかすぐには出ないんです。地域の人から「姫路獨協は変わったなあ」と見直してもらうためには公務員試験や教員採用試験に受かる人が決まるといった目に見える形も必要かと思っています。

ただ、今の学生は武本会長たちの学生時代と違い、かなり内向きなんです。スポーツ特別選抜選抜で入った学生は目標を持ってやっているのですが、文化系のクラブ活動にももう少しいろんな意味で活力を与えていかないといいけません。例えば吹奏楽にも、いい指導者やちゃんとした練習場所をつくれればもっと良くなる可能性があります。そういった文科系クラブのことをもっと考えないといいけないと思っています。

いずれにせよ、本学は16年と歴史が浅いものですから、ましてや最初の卒業生が卒業してから13年程です。できるだけ卒業生の人達に愛着を持ってもらえるような大学にしていかなければならないのです。ですから同時に卒業生の皆様にこちらからも

色々な機会をとらえてコンタクトをとりながら、色々な意見交換をしながら、「こういう事をやったら」というような意見を聞きたいんです。そういう意味で同窓会のみなさんにはこれからも時々、「文句」を言いに来て欲しいと思うんです(笑)。

武本会長: 学長とこのように長い時間お話しさせていただく機会はありませんでしたが、今日は非常に明確なお話を聞かせていただきました。我々同窓生には危機感というか、もししたら将来的に姫路獨協大学はなくなってしまうのではという思いがあります。その中でどうやって学校を盛り立てていけばいいのか、そういった部分で同窓生として、外から見てさらに良い大学にする、魅力がある大学にしていくということと一緒にやっていくことも必要ではないかと思うのです。

木村学長: そうですね。

武本会長: 正直、本学は閉鎖的で排他的なところがあり、我々の意見が通りにくいということを感じている部分があります。

木村学長: そうですか。それはこちらも反省しないといけないですね。

武本会長: そういう部分で理事会があるのであれば、学長はじめ事務局長、スタッフの方々の中に我々同窓生のような利害関係のない人間も交えていただき、姫路獨協大学を発展させ未来永劫続けていくという目的は共通して変わらないと思いますので、そういう場を設けていただければと思うのですが。

木村学長: そうですね。定期的に同窓会の代表の方と大学側が意見を交換していく機会があればいいですね。

武本会長: それと、以前に就職課から呼ばれて現代社会特別講義の講演をした時に感じたのですが、昔の価値観は「大きいことはいいことだ」「長いものには巻かれろ」という感じで、いい学校に入って、「いい就職先イコール大きなところに就職してください」「大きなところに勤務している人イコールいい人ですよ」という感じがあったのですが、今はインターネットが普及して地域格差がなくなり、大きい小さいという規模の格差もどんどんなくなり、その中で自分が何をできるか、何がやれるかということが問われている時代になっています。その中で私が思うのは、大学というのは今、高校化されていると思うのですが、本当は小中学校、高校の間に受けなければならない教育がどんどん後送りされて、大学に回ってきていると思うのです。

木村学長: まさにそうです。

武本会長: 本学にもなんとなく入学している方が多いように思います。こんな事は大学でやる事ではないと言われる方もあるかと思いますが、そういう学生に何か一点に集中できるような目的・目標を持たせてあげられるような心の持ち方、心構えを大学に入った1年生の段階で教育していただきたい。その目標に向かってコツコツ4年間積み重ねていけばすごい力になると思います。考え方が変われば、行動も変わるのではと思うのです。

木村学長: おっしゃるとおりです。率直に言って学生の偏差値はかなり下がっています。自信を喪失している人が非常に多いんです。ですから、最初から俺は出来ないと言っている学生が非常に多いんです。おっしゃるとおり、本来ならば家庭で、あるいは小学校、中学校でやらないといけない基本的なマナーや常識をわきまえていない学生がかなり増えています。それも問題なのですが、やはり大事な事は、人間というのはそれぞれ潜在的に秘めたものがあるわけです。その現れ方には優劣がありますが、誰にだって潜在的にあるわけです。一つはどうやって劣等感を払拭するか、自信を持たせるか、それが大事なんです。同時に先程おっしゃったように、自分でやろうという意欲を持たせる。これは私の言葉でいうと、心に火を点けるようなきっかけがないとだめです。それを早い時期にしないといけない。ですから今やっていることは、これは中学校、高校でやることで反対だという大学の先生もあるのですが、そうではなくて入門ゼミとか基礎ゼミで、大学で勉強するということはどういうことかということから始めて、勉強だけではなく、趣味でも何でもいいのですが、何か自信を持たせるものを持たせたい。それに向かって進んでいくような方向をどうやって持たせるか。今の大学の先生は、多分優秀な学生だったと思います。大学生というものは自分で勉強するものだと考えています。高校と違って大学の先生がするものと違うという人も非常に多いのですが、やはり本学の学生の実態をみると、先生方の学生時代とはまた違いますから、彼らに少しでも自信を持たせるような教育を各学部の先生方に協力してやってもらっているわけです。まあ、部分的には成功しているところもありますが、難しい所です。

武本会長: 最後に、結果を出すという部分で、私の意見ですが、例えば経済情報学部なら何か資格をとらないと卒業できないというようなことにすれば、その資格が自信につながるのではと思うのですが。人との約束事は守らなければ信頼がなくなり不信

感をもたれる。自信というのは自分との約束事を破るたびにどんどんなくなっていきます。自分自身との約束ということでは何か目標なり資格なりを決め、それを達成しないと卒業できないというようにし、その資格をとることによって自信がかなりつくと思います。それが社会に出た時に、やったらできるということの何かにつながるのではと思います。法学部であれば司法試験に受かって全員卒業できればいいんですが。(笑)

木村学長: それはなかなか難しいですが、いろんな資格講座もやっているんですよ。

武本会長: 「こういう資格をとったら、こういう仕事ができるんだよ」というイメージは学生にはなかなかわからないんですよ。社会に出たら色々な仕事の人と触れ合うのですが、学生にはわからない。その人たちと触れ合う機会というのも学生時代に当然、必要になってくるのではと思います。そういう制度的なものもやっていただけたらと思います。

木村学長: そうですね。それは今もやっていますが、なお、強化してやっていきたいと思っています。ただ、今難しいのは「就職」という言葉自体に拒否反応を示す学生がいます。フリーターで良いとか。ですから就職についても入った時から計画的にやれば、求人はいくらあるんです。特に関東・東京からの求人も含めればかなりの数です。ただ、本学の卒業生は概してあまり遠くに行きたがらない。それだけここが豊かなのでしょうが、それにのんびりしているというか、早い時期に自分の方向性に目覚めさせることが必要なんです。その方法をいろいろ考えています。

武本会長: そういった意味では、特に大阪のような都会ではなく、ちょっと離れたところにある学校ですので、他所の風が入って来ない。

木村学長: そうなんです。その他所の風を入れる必要があるんですね。

武本会長: それから、今や国公立が連携して大学をつくっている時代です。せっかく同じ獨協学園の冠なんですから関東の大学との連携もしていかないと。

木村学長: その辺が課題ですね。まあ、地理的に遠いということもあって、例えば埼玉・獨協大学の法科大学院というのは獨協医科大と協力しながら医療問題に絡んだ法律問題を重点にやる。むしろには獨協中学校、高校、埼玉獨協高校からの入学者がある。しかし、こちらは地理的な問題もあり、入って来ない。同じ学園の構成員でありながら、お互いに他人みたいな感じは強かったのですが、そんなこともいっておられませんが、いろんな意味で協力してやっていかないとだめですからね。ただ、姫路なら姫路でどういった形で学園全体に寄与できるか、同時にはかの高校・大学から協力を得られるか、具体的に考えていかないとだめだと思います。例をあげると、先生は非常に協力で交換しています。しかしそれだけではなく、もう少し、学園全体で協力していかないといけない。関東にある高校・大学は協力しているのですが、姫路は少し浮いています。

武本会長: 年に一度、獨協大学で近畿一円で同窓会の総会を行い、呼んでいただくこともあるんですが、素晴らしい先輩ばかりで、そういう部分で同じ冠でやっていて、関東の大学を卒業していても近畿在住の方はたくさんいらっしゃるわけです。

木村学長: 場合によって、そういう方々に協力いただければ。

武本会長: みなさんそこそこのポストに就かれている方もたくさんいらっしゃいます。そういう部分で協力して盛り立てていきたいとおっしゃっていただいています。しかし、就職についても、来てくれないのにこちらから手を伸ばしていくこともできないとも。先日大手百貨店の人事の方がいらっしゃっており、就職試験を受けに来ないのにどうしようもないとおっしゃっていました。無理だから受けないのか、足切りされて来ないのかということも難しいことがあるのかも知れませんが、そういう部分でもあつかましいくらいがいいのではないのでしょうか。

木村学長: それはあつかましいくらいいいとだめですね。一度に全部やっていくことは無理ですができるだけやっていかないといけないと思っています。

武本会長: 長いお時間、ありがとうございました。



同窓会 TOPICS

● 同窓会総会&懇親会のご案内

日時/10月19日(日)午前11時～
会場/姫路獨協大学 学生会館

志願祭(10月18日・19日)の日程に合わせ、同窓会総会を19日午前11時から開催します。総会終了後には懇親会も催します。ぜひご参加ください。もちろん、会費は無料です!
出欠のお返事は、同封のハガキまたはメール・Faxにて9月末日までにお願いします。

● 「獨楽会」のロゴを募集します!

同窓会の新名称「獨楽会」をあしらったロゴマークを募集します。採用されたロゴマークは、同窓会報をはじめ各種印刷物などで利用させていただきます。応募は、官製ハガキかハガキ大の用紙を使用(画材・色彩は自由)するか、CGの場合はIllustratorまたはPhotoshopで作成し、プリント出力を添付の上、MOかCDで獨楽会事務局までお送りください。最優秀賞(採用作品)には商品券1万円分、優秀賞には商品券3000円分を贈呈します。かっこいいデザインをお待ちしています。

● ホームページがリニューアル!

同窓会の名称が「獨楽会」と決まったのを機に、ホームページもリニューアルしました。i-modeのサイトも設けていますので、ぜひアクセスしてくださいね。

URL <http://www.hdud.gr.jp>
i-mode <http://www.hdud.gr.jp/m/index.html>



● 姫路獨協大学ローター・アクトクラブ会員募集中

就職課では、社会人として求められる、専門知識、指導力、行動力を実践活動を通じて培ってもらおうと、姫路南ローター・アクトクラブの支援を得て今年6月7日に「姫路獨協大学ローター・アクトクラブ」を設立しました。18歳から30歳までの姫路獨協大学生および卒業生が参加できますので、ぜひ卒業生の皆さんもご入会ください。

問合せ:姫路獨協大学 就職課
☎0792-23-6507 E-mail:syusyoku@himeji-du.ac.jp

● テレホンカード ご協力お願いします!

姫路獨協大学国際交流センターでは、アジア諸国の経済が悪化した5年前から、母国からの仕送りの中断や我が国の不況などによるアルバイト収入の減少などで生活のやりくりが厳しくなり、母国の家族などへの電話代にも窮している留学生のために「アジアの学生にあなたのテレホンカードを贈ろう」運動を学内外に呼びかけております。最近は携帯電話が普及したせいか、なかなか集まりません。もし、皆様のカバンの中や机の引き出しの中で眠っているテレホンカードがありましたら、使用途中のものでも結構ですのでご協力をお願いいたします。

問合せ・送付先:姫路獨協大学 国際交流センター
〒670-8524 姫路市上大野7-2-1 ☎0792-23-9156

● 賛助金納入についてのお願い

同窓会では、卒業生の名簿管理や総会の開催、会報の発行などの業務に取り組んでいますが、毎年卒業生が増えるに比例して年2回の会報発送費も増え、いずれは会費だけでは賄いきれなくなります。このため、会員の皆様より賛助金(一口1000円)を募っています。

会員の皆様には大変お手数ですが、同封の振込用紙で最寄りの郵便局からご送金くださるようお願い申し上げます。

皆様からお寄せいただいた賛助金が同窓会の大切な活動資金となります。何卒ご理解の上、1人でも多くの会員の皆様のご協力をお願い致します。

また、これまでに納入いただきました会員の皆様には厚くお礼申し上げます。
(口座00970-0-7466 姫路獨協大学同窓会)

同窓会の運営委員を募集しています

同窓会では、さまざまな同窓会活動をお手伝いくださるメンバーを募集しています。現在、毎月1回の運営委員会を開いておりますが、常時出席できない方や遠方の方でもOKです。ぜひともご協力下さい。また、勤務先や自分のお店を会報に掲載してほしいという方は、お気軽に同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

姫路獨協大学同窓会事務局 ☎&FAX 0792-23-9263
E-mail: honbu@hdud.gr.jp

● ご注意ください

大学・同窓会関係者を装った者が住所や勤務先を問い合わせたり、投資の勧誘などをしてくるとの連絡が会員の方から多数寄せられています。獨楽会では、現在のところ、直接の電話による各種調査は一切していません。また、業者との提携もしていませんので、くれぐれもご注意ください。不審なことでお気づきの点があれば、すぐに事務局までご連絡ください。

● Remember D ～獨協温故知新～

第2回「BASIC言語教材」



ほくちゃん

1・2期生が1年生の時に授業で使用したプログラミングの教材。本学の情報処理教育のために開発した教材で、今回の会報でご協力頂いた佐野先生もその開発に携わっておられました。当時はあまり普及していなかったパソコンやキーボード入力について、「ほくちゃん」というキャラクターや「けんいちお兄さん」

「よし子お姉さん」が、時には練習問題を出しながら教えてくれるという内容でした。MDを大きくした様なケース入りのCD-ROMを使用した、当時は驚きの教材でした。



施設紹介

創立15周年記念館

姫路獨協大学の開学15周年を記念して建設が進められていた「創立15周年記念館」が完成し、8月8日に竣工記念式典が開かれました。施設は、1階に柔道場、2階に剣道場を備えた武道の殿堂ともいえる様相で、ミーティングルームや談話ラウンジ、オープンテラスなどアメニティ機能も充実しています。さらに連絡ブリッジで厚生棟をつなぎ、便利な空間を実現しています。



学生食堂

学生のニーズに合わせて、このほど食堂がリニューアルされました。多種多様なテーブルや椅子を設置し、よりくつろげる空間に生まれ変わっています。また、メニューもバイキング形式やフードコートの要素を取り入れています。一度利用されてみてはいかがでしょうか。



各界で活躍! HDU同窓生

● 将来はアフリカで看護師に

看護師 大坪紀子さん(中国語/平成4年卒)



私は現在、神戸市立中央市民病院中央手術部で看護師として働いています。看護師としては3年目ですが今年4月に病院を移ったばかりなので、毎日覚える事が多く、1年目に戻った感じです。皆さんは手術室と聞くと医師にメスやハサミを渡す場面を想像されると思います。もちろんそれもありますが、意識のない患者さんの身体の状態をモニター等で把握し手術の進行がスムーズにいく環境を整える事も大変重要なのです。

大学卒業後2年目に私は青年海外協力隊隊員として西アフリカのニジェール共和国で家庭科教師として活動していました。最貧国の内の1つに数えられているこの国では、子供が下痢や風邪などで簡単に命を落としたり、病気になってもお金がなかったり、病院が遠いなどの理由で誰もが平等に治療を受けられないという現実を目の当たりにして医療の重要性を強く感じたのです。帰国後何をするか考えていた私は、医療は人のためになる仕事だと思い、一生の仕事として看護師を目指したのです。将来的には看護師としてアフリカへ帰れたらと考えています。また、機会があれば熱帯病(寄生虫学、感染症学)の勉強をしたいという夢を持っています。あくまで夢ですが。

一度きりの人生です。何事もやってみなくちゃわかりません。皆さんも夢を持ち、それに向かって頑張ってください。



● 老健施設で落語のボランティア

自営業 谷沢政則さん(法律学科/平成10年卒)



私は、大学時代は落語研究会に所属し、第5期文化会にも所属していました。卒業後2年間は地元金融機関に就職していました。その後、父の経営する企業の下請けという形で「有限会社エムズ」を設立し、現在3期目です。仕事は厨房排水の油脂分解システムの販売・メンテナンス、ビルメンテナンス、建築物美装などが主です。

学生時代は芸名を「白鷺亭 楽笑」と名乗っていましたが、今も同様の名前を使っています。これは姫獨の学生であった事の誇りを忘れないためです。

老人保健施設などで落語の演技ボランティアをしているのですが、これは元々、仕事の関係で日頃お世話になっていた施設でお礼の意味も兼ねて始めたのがキッカケです。現在も依頼があればお伺いしています。

私の中では仕事のプラスになるのではないかと考えて活動していますが、それ以上に地元香川で何か出来ないか?というのがあります。高齢化が進み過疎になり気味ですので、若い力で何か出来ないか?と。幸い力になってくれる方も今までの繋がりであり、少しでも理想に近づけたらと思っています。「芸は身を助ける」とはよく言ったものですね(笑)。

これからは、本業はもちろん頑張ってお仕事していきたいですが、落語の方も同様な特技(?)を持った地元の方たちを募って、地域サークルでもできたらなあ...と思っています。



● 住みやすく安全な英賀保村を

英賀神社宮司 木村尚樹さん(英語学科/平成6年卒)



大学1年生の頃に先代の父が他界し、在学中から英賀神社(姫路市飾磨区英賀宮町2-70)の宮司をしています。英賀神社には「夫婦和合」「経営の神様」である英賀彦と英賀姫が祭られており、英賀保という地域の名称の由来となった歴史ある神社です。ここでの仕事は、お宮参り、

秋祭り、厄除け祭、地鎮祭など様々で、特に秋祭りには力をいれています。自治会などと協力しながら「祭り」で地域を盛り上げようとしています。というのも最近、残酷な事件が頻繁に起きていますよね。そんな事件を減らすには、人と人の繋がりが重要なキーポイントになると考えるからです。だからこそ、地域の人々のふれあいの場として「祭り」を提供し、老若男女を問わずコミュニケーションをとることで、世代を越えた繋がりを作ってもらおうとしているのです。そういう繋がりは、教育にも役立ちますし、何より心の豊かさを育むことができるのではないのでしょうか。

私の願いは「住みやすく安全な英賀保村」であることです。そのためには宮司の仕事だけではなく、たくさんの方のことを学ぶべきだと考えています。1つのことに5年間集中したとしたり、できないことなんてありません。長い人生に5年という時間は、少なくとも4、5回巡ってくるでしょう。そう考えれば「できない」なんて言葉は浮かんでこないはずですよ。例えば、スランプに陥ったとしても、そのときこそ最大のチャンスなんです。私は今、環境問題についても勉強している最中です。これだけに集中するのは難しいですが、英賀保村の人々が安全で幸せに暮らしていけるようがんばりたいと思っています。

● 教える=人間を育てる

新体操指導者 尼子久美さん(英語学科/平成11年卒)



私は今ブラジルのサンパウロに住んでいます。それまでは日本で3年間、体操を子どもたちに教えていました。同時に新体操(以下GR)の指導にも携わっていました。中学・高校時代に続けていた新体操で、広島県大会で優勝したことや国体に出場したことなどの経験を生かし、大学時代からGRのクラブで指導させていただいていたのです。

これらの経験から、スポーツを通して人々に教えるという事の大切さと運命的な魅力を感じました。そしてこの仕事がとても「ありがたい仕事」だということを知りました。指導するということは、相手にGRの技術や楽しさを伝えるとともに個人の人格形成にも携わることです。ということは、教えるという事は人間を育てることにもなります。教えていく過程で、子どもたちが夢や希望を持って明るく元気に育ち、世のため人のために役立つ人に育ってくれると素晴らしいなと強く思っています。私はこの事の重大さを子どもたちから学び、まだまだ自分の力を高めていく必要があるなとも感じています。

私にとってブラジルでの生活はそういう面でのチャンスです。まったく言葉もわからない文化の違う国で、ブラジルだからこそできる大切な経験を通して人間力と知識を高める努力をしています。

ブラジルに滞在して約10カ月。こちらでGRの演技発表を8回し、ボランティアでGRの指導も行っています。言葉はポルトガル語の学校に通って勉強しました。サンパウロのGRクラブにも通い、友達も増え、だいぶ地理もわかるようになりました。今、2つ目の大学となる体育大学に通い、ブラジル人と一緒に勉強しています。こちらでは体育大学を出ないとスポーツを教えるはいけません。ようやく耳も慣れて授業も大体は理解できるようになりました。将来は生まれ育った日本で大好きな新体操を通して、そういった生きる上でも非常に大切な人としての部分も含めて子どもたちに教えていける環境をつく

り、社会に恩返ししていきたいです。そういう人間になれるよう、今ブラジルでがんばっています。同窓生の皆さん、何事もいいイメージを持って夢に取り組んで頑張ってください。

● 人との出会いで私自身も成長

司会業 田中晴子さん(旧姓・高橋/ドイツ語学科/平成5年卒)



私は4年間の大学生活を終え、いったんは実家の大阪へと戻りました。そして3年後、縁があって姫路で結婚。今は4児の母として育児に奮闘しています。

一方で、結婚前からアルバイトでしていた司会業を一番下の子が2歳になるころから再開し、披露宴やイベントの司会、また、姫路のコミュニティ放送局「FM-GENKI」のパーソナリティとして活動しているところです。

これらの仕事は学ばなければならないことが多く、日々私自身の向上に努めています。一番のメリットは、やはり様々な分野の方に出会えることです。私の知らない世界を教えていただくことができ、視野を広めていただいています。また家庭でも、個性の違う4人の子どもたちから色々なことを学ばせてもらっています。

どの世界もそうだと思いますが、人は素直さ、謙虚さがとても大切だと実感しています。人との関わりの中で人は成長し、強くなっていくものです。これからも自分の時間を大切にしながら、毎日の生活を楽しくしていきたいと思っています。

● 困ったときにはご相談ください

行政書士 霞末浩二さん(法律学科/平成5年卒)



私は、学生時代はソフトボール部で汗を流しつつアルバイトに明け暮れた日々を過ごしていましたが、一方で「将来は法律に関わる仕事ができれば」と資格取得を考えていました。それ以来、行政書士試験を受験し続け、平成9年度の試験でようやく合格し、準備期間を経て平成13年6月に登録することができました。

業務は土地利用、環境、権利義務、法人設立、入管業務、交通事故など広範・多岐にわたり、高度な専門知識を要します。現在は業務知識の習得に励みつつ、様々な問題や悩みを抱える方に対し、身近な相談相手となる業務活動を行っています。不安な様子で相談に来られた依頼者が、後に安心して喜ぶ姿でおられるのを見るにつけ、この仕事を選んで良かったとつくづく感じます。

社会の仕組みが大きく変わりゆく今、会社や個人においても、より一層の自己責任が求められます。「問題が起こってからでは遅い、それらを未然に防ぐ」といった危機管理を「予防法務」という形でサポートしていくのが我々の仕事になります。悩み事はなかなか一人では解決しないものです。困ったときはどんな事でも結構ですので、お気軽にご相談にお越し下さい。

行政書士霞末浩二事務所 兵庫県飾磨郡夢前町菅生淵460-1
☎07933-5-1476
E-mail:komio@theia.ocn.ne.jp

WELCOME to my COMPANY

龍野クラシックゴルフ倶楽部&アネックス



左から、森川浩司さん(法/H6卒)川澄あかねさん(外/H9卒)中津敦子さん(旧姓三木・経情/H8卒)青木涉さん(法/H9卒)

私、川澄は「龍野クラシックゴルフ倶楽部&アネックス」で、大学の頃から憧れていたウエディングプランナーという仕事をしています。式場予約から新郎新婦のご希望を一つ一つお伺いし、当日までのお手伝いをするとてもやりがいのある仕事です。入社7年目になりますが、勉強することがたくさんあり、まだまだ修行の身です。ゴルフ場でウエディング?と思われる方も多いと思いますが、ゴルフ場の別館アネックスで、緑に囲まれたガーデンを貸切で出来るのです。姫路からわずか30分で、リゾート地に来ている気分にもなれます。ゴルフ場ならではの演出は、「新郎愛のティーショット」「臨席者によるアプローチ大会」などオリジナル企画が好評です。もちろん、ゴルフをされない方にもいろいろあります。ちょっと変わったウエディングをしたい方にはおすすめ。そこで、同窓生の方にもぜひご利用して頂きたく、特別に割引を付けさせて頂きます。その際、「同窓会報を見た」と一言頂ければOKです。お問合せは川澄までお気軽にお電話下さいね。

サービス 婚礼の料理を3%OFF、ゴルフのモーニングコーヒーをサービス

龍野クラシックゴルフ倶楽部&アネックス

兵庫県龍野市神岡町田中内山62-2 ☎0791-65-2552

※グループ会社の青山ゴルフクラブ(☎0792-66-1125)もOK

鳥取シティホテル



渡辺進さん(平成3年度卒/法律学科)

私は卒業後、鳥取市にある日本海信販(株)鳥取シティホテルのフロント主任として現在頑張っております。周知の通り我が業界も、不況のあおりを受け苦戦を強いられている毎日であります。そこでぜひとも、同窓生の方にも鳥取シティホテルをご利用いただきたく思います。予約時に姫路獨協大学の名前を出していただければ通常料金より1000円引きにてお部屋を提供させていただきます。ビジネス、観光にぜひとも鳥取シティホテルをよろしく願いいたします。

サービス
宿泊料金を1000円引き



鳥取シティホテル
鳥取県鳥取市えびす町471
☎0857-27-6211
FAX0857-27-6217

株式会社 ナカシマ

水・空気・環境にかかわる資材、機器等を取り扱っています。今年5月に事務所・物流倉庫を新築移転し、ますますの業務拡大を目指しています。

兵庫県姫路市阿保甲350

☎0792-81-7071

http://www.nakashima-corp.co.jp



左から、大崎舞さん(経情/H12卒)曾我誠司さん(法/H7卒)赤松秀行さん(法/H6卒)大林大さん(法/H6卒)

ヤマザ蒲鉾 株式会社



左から、柴原光明さん(法/H14卒)小林良成さん(法/H13卒)総田あゆみさん(法/H13卒)

私たちの商品は、かまぼこ、ちくわ、天ぷら、カニ風味蒲鉾の4つの製品構成に分けられ、品目は400種類にもなります。特に「あなご蒲鉾」と「しらさぎ揚げ」は播磨の名産品となっています。兵庫県飾磨郡夢前町置本327-16
☎07933-5-3555



Teacher's Voice

～卒業生に想うこと～

第2回
経済情報学部 助教授(メディア工学)

佐野智行先生

私は、姫路獨協大学の開学の時に就任しました。その頃は関東の「～じゃん」などを無意識のうちに使ってしまう、結構学生に引かれてましたが、16年たち関西弁を多少は喋るようになりました。イントネーションは関東のままなので、まだ、関西弁を熟練するには時間がかかりそうですが…。

姫路獨協大学に来てから、いろいろなことがありますが、1つ上げるとすると、ネイチャースキーとの出会いです。

高校の時にコンピュータに出会ってから、コンピュータが趣味になり、今は仕事にしています。コンピュータをしている人は暗いというイメージがあるようですが、私は、小さい頃からキャンプに連れて行ってもらったりしていたので、結構、自然の中に入るのが好きです。大学から始めたスキーでは、スキー場の一番景色のいいところに行って、眺めを楽しんでいましたが、景色のいい所は上級者コースが多いので、どんな所に行っても、安全に下まで降りられる技術を身に付けるのが、スキーの目標になっていました。

横浜ではスキー場に行くのに結構時間がかかっていましたが、兵庫県の地図を見ると、車で2時間ぐらいのところにゲレンデが！しかし、行ってみると暖冬で雪の量や雪質があまりよくなくがっかりしてたところ、学生が体育の実習でスキーに行くとき、「一緒に行くと存分に滑ろう!」と思ってました。ところが、指導する教員が不足しているということで、お手伝いをはじめ、数年前まで毎年、雪上実習に参加していました。普段の授業では、50人近くを相手にしているため、なかなか一人一人と話をしたりできませんが、スキーの講習は10人ぐらいと4～5日間一緒に行動するので、色々な話などができて非常に楽しかった思い出が多くあります。(これを読んでいる人の中にもいるはずです…)

そんな中で、桃井先生と出会いました。初めはアルペンコースの講師をお願いしていたのですが、人が手を加えたゲレンデではなく、森の中に入っていくネイチャースキーを提唱していて、翌年から雪上実習のコースとして用意されました。

夏は下草が多く、人が簡単に入ることができない森も、冬になると雪で下草や低木が隠れるので、自由に森の中を歩きまわることができます。ツタと木の戦い、熊笹、アカゲラの果など、森の中にはいろいろな「不思議」が詰まっています。私はネイチャースキーを履いていますが、スキーが苦手な人はスノーシューをはいて、ハイキング気分でも森を楽しむことができます。誰も滑っていない斜面を滑るのは、すごく気持ちのいいことです。

ネイチャースキーで宿泊した施設で、「最近の子どもは遊び方を知らない」と聞きました。雪のあるところに来て、自分で工夫して遊ぶことができないそうです。「こんな遊び方があるよ」と教えてあげないと何もできない子どもが多くなっているそうです。

皆さんの中には、子どもが小学生ぐらいの人いるでしょう。遊ばせたい事、コンピュータゲームなどで自然に触れ合うことが少なくなっています。ぜひ、子どもにいろいろな体験をさせてください。雪上実習でも、吹雪の中で半分凍ったおにぎりを食べた次の日、いい天気になり、自然の厳しさを体験すると、物の見方が変わってきます。子どもだけでなく、あなた自身も、体験してみてもいいですよ。森の中に入ると、癒されますよ。

雪のない時は何をしているかというと、6年前からパラグライダーを始めて、天気の良い週末は青垣町の岩屋山で飛んでいます。やはり、教えるのが好きなので、助教員の資格をとって、時間があるときは一日体験や初心者教えます。初めて体が浮いて、空を飛んだときは、子どもでも大人でもいい笑顔を見ます。その、スクールの校長と桃井先生が30年前の知り合いだったそうです。世の中狭いものですね…。

姫路獨協大学同窓会 教養講座 社会保険労務士受験対策講座

社会保険労務士は、労務・人事、労働、社会保険・年金関連の今話題の国家資格。こんな方におすすめします。

☆会社の仕事に役立てたい

会社の総務・人事部門の方には社労士資格は非常に有利。銀行員勤務の方なら年金部門のスペシャリストになれます。

☆就・転職の切り札にしたい

社労士の有資格者を置く企業はまだ少なく、社労士の資格があれば、就職・転職の際にも自分の能力を認めさせる強い切り札になります。

会場:姫路獨協大学 202C教室

日時:平成15年11月1日～平成16年7月31日の土曜日(計32回)13時～17時
受講料:同窓生 4万円(一般 6万円)

教材費 5千円

講師:白井信雄(中国語学科/平成10年卒)

申込み:メールかハガキにて。住所、氏名、電話番号、卒業年を明記してください。9月1日から10月24日締め切り。

申込先:姫路獨協大学同窓会事務局

〒670-8524 姫路市上大野7-2-1 ☎0792-23-9263

E-mail:bonbu@hdud.gr.jp

※電話での問い合わせは9時から14時まで。

倶楽部ホームページ(<http://www.hdud.gr.jp>)にも詳しく掲載しています

播磨学特別講座

生国播磨の武士・宮本武蔵～その“虚像”と“実像”を探る～

生国播磨の武士・宮本武蔵の真実の姿を、第一線の研究者を招いて追求します。途中からの受講も可能で、同窓生は会員価格で受講できます。申し込み時に卒業年度をお知らせください。

会場:姫路獨協大学 303D教室

定員:250名(定員になり次第締め切り)

日時:～平成15年12月6日(残6回)

午後1時30分～3時30分

受講料:3,500円(6回分)

申込み:ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、卒業年度を明記して播磨会まで。受講証をお送りします。

申込先:姫路獨協大学 播磨会

〒670-8524 姫路市上大野7-2-1

☎&ℱ0792-88-5150

※播磨会へ入会希望の方も上記までお申し込み下さい。

市民のための外国語講座(後期)

英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ハンガリー語、日本語の講座を開講。同窓生は割引料金で受講できます。熟練度により、初級、中級などクラスをお選びください。8月19日(火)から9月5日(金)まで先着順にて受付、定員になり次第締め切ります。受講希望の方は下記までパンフレットを請求して下さい。また、締め切り間際にお申し込みの場合は、電話にて申し込み状況をご確認下さい。

受講料:1講座につき1期 12,800円(日本語中上級は1期6,400円)

※テキスト代金は別途必要です。

日時:平成15年10月1日(水)～

問合せ:姫路獨協大学 総務部総務課

〒670-8524 姫路市上大野7-2-1

☎0792-23-2211 ℱ0792-85-0352